

第3回滋賀交通ビジョン見直しに向けた懇話会

概要

1) 開催日時・場所

日時：令和5年2月6日(月) 10:00～12:00

場所：滋賀県危機管理センター 大会議室

2) 議題

- 1 第2回懇話会での意見への対応について
- 2 滋賀地域交通ビジョン骨子案について
- 3 滋賀県が目指す地域交通の姿について
- 4 地域公共交通に対する国の施策の概要について
- 5 今後のスケジュールについて
- 6 その他

3) 議事要旨

(1) 第2回懇話会での意見への対応について

(2) 滋賀地域交通ビジョン骨子案について

(3) 滋賀県が目指す地域交通の姿について

座長：骨子案でいくつかの指標が設定されている。県全体、4つの地域ごとの指標が良いかどうか。動画は今後将来の姿を県民と共有する時に使われると思うが、こういう内容でよいかどうか。目指す姿の達成に必要な費用について、あくまで試算ではあるが示されているため、この点についても忌憚のない意見をお願いしたい。

委員：各市長が集まる場で意見を聞いていると、市町へのアンケートの関係で、9ページのところで、医療、商業、教育、観光、福祉とあるが、定住促進が67%となっている。11ページの保障すべき移動目的として定住促進も入れて頂けるとありがたい。人口が集中している南部地域とそれ以外の地域では、担当者の声に差がある。人口減少社会に入らないうちは、こういう視点も必要ではないかと感じている。もう1点はこの中になかったが、産業振興。県としては産業誘致戦略の策定もあり、県土全体としてはそういう視点も必要ではないか。各市長が口にされる場所として挙げさせて頂いた。

事務局：定住促進と産業振興は地域交通として重要だということは、その通りだと思う。定住促進は様々な要因で実現するものであり、複合的なものはあえて外させて頂いた。必要性は認識しているため、表現の仕方は工夫する。

委員：40ページに目指す姿を実現するための施策として、鉄道、バスのダイヤの調整と記載されているが、目指す姿の実現のためにはダイヤの調整だけでは難しく、一民間企業だけでは難しいと感じている。めざす姿を達成するためのバスの経費感等は示されているが、このビジョンの中での鉄道に関する基本的な考え方はどのように考えられているか。

事務局：7 ページに目指す姿の考え方をまちづくりの観点から示しているが、拠点を公共交通でつなぐ、軸になるのはJR線はじめ地域鉄道線ととらえており、これからも軸として持続、発展していく前提と考えている。鉄道の経費感を示せていないのは、データを持ち合わせていなかったためである。ただし、バスの本数を増やしても、駅で1、2時間待つていただくことになる意味がないため、バス網と鉄道の乗継等の調整もあわせて検討する。

委員：大前提の話になるが、今回お示し頂いた課題が、「誰もが、行きたいときに、行きたいところに移動ができる、持続可能な地域交通」とあり、自家用車を使わないでも移動が出来る、ということだが地域分類④から漏れる部分があるのではないか。コミュニティバスも通っていないくて、公共交通機関へ行く手段もないという人もいるのではないか。今後、地域を循環するなんらかの手段をフォローアップする施策をどこかに含めておかないと、目指すべき方向から取り残される部分が出てくるのではないか。過疎地はコミュニティバスが通っているが、その中間の部分で通っていないくて、病院や支所へも行けないというところもある。

事務局：非常に重要なご指摘と捉えている。あえて地域交通と言っているのは、バス、タクシーでもカバーしきれていないところがあると考えている。40 ページで、「多様な関係者による連携・新たな運行形態」にカーシェアリングとある。カーシェアリングは都心のイメージもあるが、バスの運行もできないような中山間地域で、車両を置いておいて地域の方に活用して頂く、公共交通とは言えないような手段も含めて、移動手段の確保を様々な観点で検討したい。

委員：地域コミュニティの中で、バスを運行しようとした地域があったが、市の施策の目的はJRや鉄道へつなぐということだったため、循環は認められないというケースがあった。

委員：40 ページのギャップを埋めるための施策で、交通弱者と言われる者は地域分類①の駅では乗せてもらうことができるし、JRとも連携で議論しているが、例えば湖西線の志賀駅や車いすを乗せてもらえるバスはまだまだ少ないと感じている。利便性向上にバリアフリーやユニバーサルデザインの促進は地域分類①も②も③も必要なもので、記載してはどうか。

事務局：第一回懇話会のときもご意見を頂き、40 ページのところに福祉施策としてバリアフリー、ユニバーサルデザイン車両の購入など特出しで記載しているが、利便性向上に記載すべきということか。

委員：利便性向上という項目の中で含めていただきたい。

事務局：記載の仕方は工夫する。

座長：ユニバーサルデザインは地域によって異なるものではない。人口が多いところ少ないところで若干の差があるかもしれないが、考え方としては県域全体だということはどこかで明記する方が良い。

動画について、若い方からお年寄りまで描いていてよいが、タクシーが出てこなかった。それに近いものは出てきたが、タクシーはきちっと入れておくべき。タクシーも今後形態変化するかもしれないが、やはり全ての輸送資源を動画に入れておかないと心配な面がある。

副座長：緻密に分析されているため、ビジョンを策定するうえで参考になる情報がたくさんある。

5 ページで加味すべき観点を記載いただいているが、脱炭素は加えるべきではないか。世界的に協力を推し進めるトレンドにあり、運輸部門のCO2削減は大きな課題になっている。滋賀県は環境立県というところもあり、運輸部門でも推し

進める記載があったほうがよい。また、デジタル化は今後あらゆる場面で進んでいき、交通面では MaaS、DX が進んでいくため、その観点も反映してはどうか。動画については将来を見据えた交通ビジョンのイメージを共有するうえでは大事なコンテンツであるが、拝見した内容は道路交通のイメージがやや強い内容になっていた印象がある。バス、それ以外の様々な移動手段、次世代型のモビリティも見せて頂くのは大事だが、基幹軸としての鉄道が目指すべき滋賀県の交通でどのような姿になっていて、他のモビリティとどのように連動していくか、がもう少し表現されていた方が良いのではないかと。バスについても、単に頻度だけが課題でなく、定時性が担保されないと乗ってもらえないのではないかと。動画には LRT が出てきていたが、BRT があってもいいのではないかと。公共交通の利用を促すにはどれだけ便利かが重要で、車はより便利だから利用されている。公共交通をどれだけ充実させても便利でないと乗ってもらえない。定時性が弱点になる可能性もある。滋賀県は車で来ると、特定のエリアで渋滞がある。自家用車は仕方ないが、バスがそうになってしまうとなかなか乗ってもらえない、利便性を感じてもらいにくくなる。こうした観点を今後の施策で加えてもらうほうがよいのではないかと。極端なことを言うと、車の方が不便というくらいでないともーダルシフトは起きにくい。車よりも公共交通の方が便利になっていないといけないのではないかと。

地域分類を 4 つに分けて指標を例示して頂いているが、キーになるのは地域分類④④と考えている。公共交通が不便なところで、移動の選択肢が確保できるようになっていくことを記載することが重要である。

定住促進の話もあったが、自然豊かなところに住みたいけれど通勤に不便だから選べないという方々は多いのではないかと。そういった部分を解消することで、定住促進や地域コミュニティの問題解消にも繋がる、というような構成に出来れば良いのではないかと。コンパクトシティはあくまで都市機能を集約化させることで、住む場所としては周辺地域でも良い。ただし、都市機能へのアクセスが出来ないと地域間で分断が生じてしまう。地域分類④④をそうした視点で位置づけていく必要があるのではないかと。

事務局：地域分類④④がキーであり、どういう地域になっていくかを示すことが重要ということで、認識はしていたが表現として不足していたため、検討する。

座長：立地適正化計画との整合性を今後踏まえる必要がある。どこに住んでも大丈夫というところまでは行政はサービス出来ない。山の中に住みたいという意思を行政としては拒むことは出来ない。どこまで行政としてサービスを確保するか、は地域とのコミュニケーションも必要となる。

委員：通勤通学の時間帯で 30 分に 1 本と示して頂いているが、これだけ充実すれば通学の子供たちも助かると思っている。資料を見ていると 6～9 時と 17～20 時だが、学校が終わるのは 15 時半か 16 時くらいなので、それくらいの時間から設定いただきたい。保護者にとっては学校が終わったあとの習い事や送迎が 20 時まで 30 分に 1 本運行頂けるとありがたい。

40 ページの施策例のところ、30 分に 1 本など運行体制を整えていただいても、公共交通に乗らなければ意味がない。小さい子が公共交通に乗るということを経験していないと、大人になっても乗らない。そのため、小さい時から公共交通に乗る経験をする等、モビリティマネジメントという観点も必要ではないかと。

委員：脱炭素の視点として、県として進めている「CO2 ネットゼロ社会づくり」の 2050 年目標像と整合性を含めて考えていただけると、県としての政策の方向性がよ

り明確になるのではないか。

委員：動画は近未来を印象として強く感じる一方で、資料3では既存公共交通の運行本数などを対象としており、ギャップを感じた。動画はMaaS、LRTなど新技術を取り入れているが、既存の公共交通の運行本数増加について動画で触れても良いし、資料に新技術を反映しても良いのではないか。新技術を導入について、その実現可能性はどの程度あるか。LRTはコストがかかるが、今回の資料に反映されているのか。新技術は夢を見せてくれる分、実現が難しいのではないか。

事務局：動画の中では自動運転になって運行本数が増える等はナレーションで触れているが、映像としては入れてないので、表現として弱いということかと思うため検討する。概算費用について、46ページで記載しているが、MaaSや自動運転は入れているがLRTは入っていない。こうした費用も含めてどこまで目指すのかを住民の方とも来年度議論したい。今は矛盾もあるが、こうした前提を置いている。

座長：今後、この懇話会で議論していく話として、取り入れる新技術や実現可能性等については、この懇話会である程度の答えを出して、税制審議会での議論につなげるということかと思う。

委員：高齢の方や障がいをお持ちの方が公共交通機関を利用されない理由として、しんどいということ、諦めているということがあると思う。それが外出機会や社会参加を少なくしてしまう。交通が生活だけでなく人生も左右する、と思うとこういう施策を進めることが大切である。交通空白地帯、特に高齢者・障がいがある方について、地域分類①②③もあるが、特に④は力を入れて進めていただきたい。公共交通の利用を諦めている方が、これから先の自分の生活が変わるのではないかという期待感を持てるような動画にして頂くとよいのではないか。動画は素晴らしく、自分たちの生活がこんな風になるのか、と思うが、今の課題や生活がどんな風になるのか、が反映されるとよいと思った。

事務局：地域分類④で外出機会等も動画に含めるなど、表し方を考えていきたい。

委員：タクシーについて、交通空白地域で切実な問題が起こっている。100歳以上の方が今後も増えていく中で、高齢者の一人暮らし、高齢者だけの世帯が増えていく。家族に送り迎えしてもらえる方は良いが、交通空白地域にお住まいの方は難しいこともある。今までは車で移動していたが免許の返納など、自分が使っていた自家用車のような感覚で手軽にタクシーが利用できたら素晴らしい。タクシーもひとつの要素として加えて頂きたい。2040年代という第二ベビーブームの方が後期高齢者になる。人口の膨らみがあるのでまた別の高齢化の問題が出てきたり、若い層がぐっと減っていくので支援してもらえる人が減っていったりと、色々な問題が出てくるのではないか。高齢化の問題も含めて考えていただければと思う。

事務局：タクシーは重要な公共交通のひとつと認識しているが、動画には入っていなかった。路線としては難しくても、デマンドで対応できる場所もある。タクシー事業者の方と協議しながら進めたい。

委員：22ページにも指標を挙げて頂いているが、バス交通は鉄道もそうだが利用があるところしか路線を引かない。バス停の人口カバー率について語弊のある発言かもしれないが、バス停の人口カバー率が上がれば利用してもらえるようになるのかというと、そうでもないと考えている。地域分類①でも路線の少ない地域はたくさんある。タクシーの話も出たが、空白地域も含めて誰もが行きたいところへ行けるのか。具体的に指標をあげてこうしたことをやってくださいという

のも難しいが、良い指標があれば入れて頂きたい。

事務局：費用試算のところは路線バスを使って試算をするために、人口カバー率や運行本数を用いてきた。実際はバス路線が成り立つところと、その先はタクシーを活用するということが出てくると思うが、場所によって変わってしまうため 1 つの指標として整理することが難しかった。多様な交通手段を組み合わせるべきということは承知しているため、今後議論していきたい。

委員：47 ページの参加型税制というのはどのようなイメージか。また、近江鉄道が公設民営になるが、国の支援や県の財源以外に、既存税制で構成団体の負担に対して特例措置が受けられること等はここで記載できないか。

事務局：参加型税制については、明確な定義はないが、税のあり方をつくる際に、地域の方と議論しながらつくっていくというイメージでこの言葉を使っている。国の支援の活用と記載しているのは、様々な制度を活用するイメージで記載しており、既存の税制の活用という観点で含めさせていただきたいと思う。

委員：第 6 章のパターン A、B、C の B で「最低限目指したい」は表現が適切か。これから負担のあり方などを議論していくと思うが、最初から B を目指して議論していくべきといった誤解を与えかねない表現となっている。アンケートで出てきた言葉とは思いますが、表現は考えて頂いた方が良いのではないか。

座長：数多くのご意見が出た。ご意見を踏まえて、全ては難しいかもしれないが骨子を充実させていき、説明資料に活かして頂ければと思う。

(4) 地域公共交通に対する国の施策の概要について

質問なし

(5) 今後のスケジュールについて

意見なし

(6) その他

意見なし